

派遣事業概要

(公財)松山国際交流協会では、毎年夏休み中に「まつやま中学生海外派遣」を実施しています。

この派遣は、松山市の姉妹・友好都市での交流や体験学習、ホームステイなど、文化や言葉の違う人達との交流を通して、いろいろな価値観があることを学び、広い視野を持って物事を見ることができる国際性豊かな人材の育成を目的としています。

昨年度に「中学生チャレンジプロジェクト」(※1)へ登録し、1年を通じて国際交流活動に参加した中学生を対象に派遣生の募集を行いました。その中から選考された42名が、4回の事前研修の後、アメリカ班、ドイツ班、韓国班に分かれ派遣されました。この派遣を通して学んだこと、心に残ったことなどをレポートにまとめました。

※1「中学生チャレンジプロジェクト」については8ページをご覧ください。

●事前研修

派遣先の文化やライフスタイルを理解するとともに、自分たちの国や街のことを再確認し、ホームステイ先でもきちんと紹介できるように、出発までの間、4回にわたり事前研修を行いました。



●報告会

帰国後、それぞれの班が現地で学んだ知識や体験等を発表する「報告会」を行いました。



☆派遣事業全体スケジュール☆

6月22日(日)	事前研修会
6月29日(日)	事前研修会
7月6日(日)	事前研修会
7月13日(日)	結団式・壮行会
7月18日(金)	事前研修会
7月18日(金)	ドイツ班出発
7月22日(火)	アメリカ班出発
7月25日(金)	韓国班出発
7月29日(火)	韓国班帰国
7月30日(水)	ドイツ班帰国
8月1日(金)	アメリカ班帰国
8月1日(金)～ 8月5日(火)	韓国班受入
8月中旬	事後研修
8月23日(土)	報告会

アメリカ班

アメリカ班は16名が7月22日から8月1日の11日間、サクラメントとロサンゼルスなどを訪問しました。



ドイツ班

ドイツ班は16名が7月18日から7月30日の13日間、フライブルクとオーストリアのインスブルックなどを訪問しました。



韓国班

韓国班は10名が7月25日から7月29日に平澤を訪問し、「韓中日 青少年国際交流キャンプ」に、中国・寧波(ニジボー)市、秋田県、青森市の子供達とともに参加しました。
また、8月1日から8月5日までは平澤の中学生を松山で受け入れて交流しました。

派遣

受入



アメリカ班



驚きのアメリカ

愛光中学校 安達 大策

アメリカで目の当たりにした、広大な国ならではの常識は、僕にとって驚きの連続でした。

たくさんの方々の大きな支援を受けてやりと成り立った、十日間の長いアメリカでの研修で僕が知ったのは、面積が日本の25倍というほど広い、自由の国アメリカで独自の発達を遂げた、日本では考えられないような壮大な文化、そして常識の数々でした。現地に着いて、まず驚きだったのは、モノの大きさと、高い物価でした。日本でいうと、Lサイズの大きさの食べ物、現地ではSサイズで出てきました。物価も高く、大抵は日本の1.5〜20倍、高いところで3倍もして、僕のお財布は厚みが減る一方でした。食べ物はおいしくて、ステイ先のグランマの作ってくれたハンバーガーは絶品でした。簡単な英語でも会話できて、アメリカカンジョークも面白くて、僕はすぐにステイ先で打ち解ける事ができました。からっとした気候も僕にはちょうどよく、快適に過ごせました。バスの中やステイ先の車の中では、外の風景を見る事が多かったのですが、その時に気づいた事は、日本のように高い建物ほとんどなかった事と、たくさんアメリカ車が走っていた事です。アメリカでの生活は、友達との楽しい会話や、色々な所に連れて行ってくれたステイ先、面白い企画を考えて



白い企画

アメリカ班日程

7月22日(火)	松山発 サンフランシスコ着後、 サクラメントへ移動
7月23日(水)	サクラメント市内見学 ウェルカムパーティー
7月24日(木)	金発掘体験、歴史博物館見学
7月25日(金)	カリフォルニア・ステート フェア見学
7月26日(土) ~27日(日)	ホームステイ
7月28日(月)	ロサンゼルスへ移動後、市 内見学
7月29日(火)	カリフォルニアサイエンス センター、 全米日系人博物館見学
7月30日(水)	UCLA見学
7月31日(木)	ロサンゼルス発
8月1日(金)	松山着

くれた先生達、安全な派遣になる様に手配してくれた旅行会社の方々のおかげで楽しかったです。ありがとうございました。

特別な11日間

愛光中学校 粟木 早恵

この11日間のアメリカ派遣はわたしにとって素晴らしい思い出になりました。派遣前、海外に行ったことがなかった私にとって、海外というのは未知の世界であり、一つの夢でした。日本を去り、アメリカに入国したとき、入国審査から何から全てがどきどきしました。サンフランシスコを経て、最初の夜はサクラメントの寮で過ごしました。サクラメントは思ったよりも寒く、特に朝が寒くて驚きました。昼間は日本のようにじめじめしておらず、過ごしやすかったです。やっぱり一番の思い出はホストファミリーと過ごした約三日間です。ほかの滞在では、日本語を使いながら、アメリカに来た実感が薄れてしまっていたのですが、ホームステイだけは特別で、英語の勉強になりました。この時初めてアメリカに来たというはつきりとした実感をもつことができました。また、自分たちのためにホームパーティーを開いていただき、現地の同じ年くらいの子と親しくなれました。また招待された親戚

皆が、はしを使おうとしてくれたことが嬉しかったです。今回の派遣でアメリカに実際に行かないと分からない、日常の風景や雰囲気はたくさん吸収することができました。初の



海外を15人の仲間と共に過ごすことができました。よかったです。

アメリカに行ってみて

松山市立中島中学校 石丸 智彦

最初はサクラメント市での出来事を書いていきたいと思っています。まず、始めに困ったことは入国審査です。相手は喋っていることが全て英語なのであまり分かりませんでした。そしてついには意外とアメリカに来たという実感はあまりなくすぐに空港を出ました。その日は移動して大学寮に泊まりました。それで、サクラメント市で特に心に残ったことはwelcome partyと大学寮での卓球です。まず、welcome partyについてです。僕たちの班はジェスチャーゲームの出しものがありました。準備が完璧ではなく不安でしたがこれが意外に楽しんでもらえました。そしてホストファミリーの人たちとたくさん話しました。しかし、またもや英語であまり分からなかったけど、なんとか伝えたり聞いたりすることができました。野球拳おどろきもなんと卓球は、大学生が使っていて、出来そう



ではなかったのですがなんとか英語で友達と説明してくれて使うことができました。そして卓球をしていると大学生が中国語で挨拶してきました。やっぱり中国人と日本人の区別が付いていないという事が分かりました。そして卓球の試合が終わ

ちよつと休んでいると大学生が話しかけてきました。お互い自己紹介をして軽い会話をしました。軽い会話ですが僕にはとても心に残りました。

アメリカでの11日間

松山市立南中学校 井谷 清乃

今回の研修を通し、目標の「積極的」ということが達成できたと思います。最初は言葉が通じず不安でいっぱいでしたが、そんな思いはすぐに消え、いつの間にか自分から現地の人と話してしまいました。そのきっかけは寮での出来事です。

私がある大学生とエレベータに乗り合わせたとき、「2階を押してください。」とドキドキしながらも思い切って言えたことです。そのおかげで、残りの10日間を有意義に過ごすことができました。

次の日の金発掘ツアーでも、分からないことは「Excuse me」と質問できました。「積極的」、まずは思い切ってコミュニケーションを取る事が大事だと改めて感じました。

初めてのホームステイでは、ホストファミリーが私に様々な経験をさせてくれました。日本にはない店やアメリカならではの物を紹介していただきました。ドルやセントの使い方も教わり、自分で精算することもできました。あつという間の3日間でしたが、とても楽しく充実した時間を過ごすことができました。お別れの時は悲しくて泣いてしまいました。けれど、それだけ良くして頂いたという事に改めて感謝したいです。帰国後は、メールをすることで感謝したいです。帰国後は、メールをすることで感謝したいです。帰国後は、メールをすることで感謝したいです。

全てを通して感じたことは、人とのつながりです。現地の人は初対面の私たちにも、快くフレンドリーに話してくれました。また、様々な面でスケールの大きさに驚きました。何事にもオープンで心の広さはもちろん、身長の違いや家にプールがあったり天井が高かったりすること、道路の幅にもびっくりしました。アメリカをしつかり感じることが出来ました。最後に、このアメリカ班のメンバーと過ごせたのは、親や引率の先生方の支えがあったからです。



最後に、このアメリカ班のメンバーと過ごせたのは、親や引率の先生方の支えがあったからです。

最高の夏休みにしてください。本当にありがとうございました。

アメリカでの貴重な経験

済美平成中等教育学校 一色 莉子

UCLAに行く前の日の夜、テレビのニュースで道路が割れて水が噴き出ている映像を見ました。どこで起きたのだろうと思っていたら、UCLAのすぐ近くでした。とてもびっくりするとともに、見学に影響が出るのではないかと心配しました。行ってみると、思っていたよりも影響はなかったけれど、水をくみだしていたりして入れないところもあって、少し残念でした。その他は普通に見学できて、ロイスホールやパウエル図書館などのきれいな建物を見たり、大学生協のUCLAやUCLAのスポーツチームであるBruinsのグッズを買ったりしました。昼食はUCLAのキャンパス内でそばを食べました。久しぶりの日本食はおいしかったです。その日本食レストランの名前が「津波」だったので、なんだか微妙な気持ちになりました。怖かったのはガイドさんがしてくれたお話です。自分たちが降りてきた階段の下から7段目に昔UCLAの大学寮の寮長だった女性の死体が埋まっているという話です。ぞーっとしながら、どこの国にもこんな都市伝説みたいなものがあるんだなと思っていました。短い滞りの間にこんな事故のようなことが起きたのは、少し残念なだけに、貴重な経験が出来ました。

驚愕のスケール

カリフォルニアサイエンスセンター 越智 拓敦



カリフォルニアサイエンスセンター 越智 拓敦

ホームステイを除く研修の中で自分の心に強く残っているのが、カリフォルニアサイエンスセンターです。僕は事前研修のとき、すでにここについて調べていたので、大体分かっていたつもりでした。しかし、実際行ってみると思った以上のものがありました。まずMAXで観るマダガスカル動物たち。すごい迫力のある映像で、見入ってしまいました。日本で見られない動物たちを間近に感じることができました。次に館内にある様々な展示物。本物ばかりで、すごかったです。とくに、ジェット機を見たときの迫力は忘れられません。アポロの 캡セルも本物が展示してありました。アメリカの航空、宇宙開発の歴史を肌で感じられたと思います。また、ジャンルごとに分かれて展示があるエコシステムセクション。ここでは模範のオペを、患者に映し出して観ることができて、すごい緊張感のある、リアルな映像でした。ぜひ見てほしいところ。そして、エンデバー。このスペースシャトルは、カリフォルニアサイエンスセンターに展示されています。すごい大きく、言葉で言い表せないものでした。個人的に宇宙が大好きなので終始興奮しました。ここは、全体的に、肌で感じられるところだと思っています。ここでの経験は必ず大人になった自分に活かせるだろうと思っています。

素晴らしき体験 松山市立小野中学校 越智 文音

私の中で一番夢のような11日間。毎日、初めて目にするものばかりで、とても新鮮で、興味と驚きの連続でした。まず初めに驚いたことは、いろいろなもの大きさ・量の違いです。建物、車、道路の幅はどれも大きく、食事の量も2人前くらいが普通でした。私は見ているだけでお腹がいっぱいになってしまい、残すとダメだと思っただけで、やっぱり・・・無理でした。2つめは、初めて会う私たちにも気軽に声をかけてくれる明るい方が多いです。ホストマザーや交流した方々は、私のつたない英語を理解してくださり、ホームシックにならないよういろいろと気を使ってくださいました。おかげで、日本を思い出さずとも楽しく日々を過ごすことが出来ました。この研修を通して、自分の可能性が広がることが出来た。そして、最高の仲間と過ごすことが出来た日々は一生の宝物です。このような素晴らしい機会を用意してくださった全ての方々に、本当にありがとうございました。



(サバイバルイングリッシュ)

愛媛大学教育学部附属中学校 小野 真菜美

初めてのアメリカ、初めてのホームステイ。この海外派遣は私にとって「サバイバル」でした。派遣生に選んでいただいた時は、届いた封書に舞い上がって大喜びしましたが、同時に不安もいっぱいでした。初めての事前研修。幸いにも活動を共にした友人もいて嬉しかったです。また、初めての人もすぐに打ち解け、回数を重ねるたびに仲良くなれたのが心強かったです。

たくさんの人に見送られアメリカへ入国！湿度が低い！私は一気にテンションが上がりました。フラシスコ、そしてサクラメントへと向かいました。サクラメントはとてきれいな街並みで気分が高ぶったまま、最初の宿泊地、大学寮へ無事に到着しました。が、しかし、早速サバイバルが始まりました。私たちの部屋の電気が点きませんでした。点検に来て下さった方へしどろもどろで話しかけ、直していただきました。サクラメントは昔、ゴールドラッシュに沸いた街です。金発掘ツアーとして砂金を取ったのですが、その最中に緊張と少し寝不足もあったのか、私は気分が悪くなり、休憩をすることに。そのため、あまり砂金が取れなかったのが残念です。

ある日の昼食はマクドナルドで、自分で注文しました。日本で慣れているはずなのに、ドキドキしました。私のステイ先は85歳とは思えない、とっても元気な65歳という年配の女性でした。毎朝やってくる野良カモ（しかも30羽くらい）のこと、近所のこと、旦那さんのこと（9年前に亡くなってしまい、とても寂しいそうです）などたくさん話してくれました。彼女は歴史が好きで、道後温泉や松山城を紹介できて良かったです。とっても料理が上手で、どの食事もととても美味しく幸せでした。他にも娘さんやお孫さんにも会えて楽しかったです。一番下のお孫さんは6歳で、お土産のシールをおでこに貼ってははしゃいだりして可愛かったです。娘さん達の会話は早口で上手に聞き取れなかったのですが、頑張って聞きました。私にははやく話しかけて下さったので会話ができてうれしかったです。

ロサンゼルスは華やかな反面、人が多くてちょっと危機感を感じる場面もありました。観光地がたくさんあり、テレビで観たところのある所ばかりで、ガイドさんが教えてくれた「看板やパンフレットなどの英文、英単語を読むことが上達のコツ」を心がけました。

あつという間の海外派遣でした。今回は日本はもちろん、現地でもたくさんの方に支援していただいたので盛りだくさんの日程で安全に過ごせました。それでもちょっとしたハプニングがあったりしましたが、私には毎日が新鮮で挑戦することさえ楽しい日々でした。私の目標はいつか個人でまたSteveさんのお



宅へホームステイをしてもっと仲良くなることです。松山にももっと興味を持ってほしいです。そのためにもっと会話を身に付けたいです。本当にありがとうごさいます。Thank you so much!

映画とアメリカ

松山市立湯山中学校 金谷 未来

「うわあ。」Warner Brothersのバックヤードを見学に行った時の第一声はこれでした。特に、Harry Potterの撮影で使われた物の展示品を見た時は体が興奮していました。

私は、昔からHarry Potterが大好きで、何度も映画と本を見たり読んでいました。だから、いつか撮影現場で使われた道具を見に行きたいと思っていたので、本当に嬉しかったです。Harry PotterやSpidermanなどの映画だけでなく、ドラマやコメディの撮影現場も見学しました。これらを作るには、私が想像していたよりも美術や衣装などに細かい配慮がされていて、登場人物だけじゃなく、何百人というスタッフの努力と協力があった作り上げることのできる作品なのだと感じました。

また、私のHost Familyは、リビングルームをAmerican comicのアートフレームやステッカーで装飾していたし、Hollywoodでは有名なミュージシャンがstreet performanceをしていたので、西海岸は興業の本場であることを実感しました。アメリカの発展を支える産業のひとつとして、映画業界が大きく貢献していることがわかりました。一つの作品が登場人物だけでなく、たくさんの方の手によって作り上げられたように、今回の派遣事業も、私たち16人が無事帰ってくるのが出来たのは、引率して下さった先生方をはじめ、たくさんの方々の理解と協力があったおかげです。本当にありがとうございます。またつやま中学生海外派遣のアメリカ班の一員として派遣されたことを嬉しく思います。これから人生に大きく役立てたいです。

アメリカ最高!

松山市立小野中学校 菅野 大暉

アメリカで過ごした11日間は、あつという間でした。毎日がとても新鮮で、日本では味わえ



ない新しいことばかりでした。

僕は、英語が全然できなくて話すのも聞くのも苦手でした。そんな僕です。アメリカの人としゃべっている言葉は最初あまり理解できなかったが、気持ちをこめて一生懸命話せば話が通じたこと、少し自信ができました。今回のアメリカ派遣で一番楽しみにしていたJICAでは、日本の大学と比べあまりにも規模が大きく驚きの連続でした。売店も水や食べ物、服、文具、電子機器など様々なものが売っており、大型スーパーかと思うくらいでした。

また、僕が好きな図書館がいくつもあって、聞くところによると本の数も8万冊ほどあり、大学とは思えないほどでした。JICAは迷子になるくらい広くて校内全部を見ることができず残念でしたが、いつか、このような大学で勉強してみたいと思いました。



僕は、この海外派遣で、日本では経験できない沢山のことを学ぶことができました。この貴重な経験を、今後活かしていきたいと思っています。この機会を与えてくださったすべての方に感謝します。

アメリカの動物

愛媛大学教育学部附属中学校 竹本 篤至

長かったようであつという間だった11日間。この11日間は、自分にとってとても貴重な日々でした。

今回の海外派遣では、サクラメントとロサンゼルスを訪れました。

サクラメントの思い出は、なんとこれもホームステイです。ホームステイ先のHOOKERさん一家は、とても明るくいつも僕を気遣ってくれました。ゴルフ・プール・航空博物館・ゲームセンターなどさまざまな場所に連れて行ってくれて、サクラメントを満喫することができました。特にゴルフは、カート道がなく、日本にはないアメリカスタイルにビックリ！さらに、ご主人とのゴルフ勝負にも見事勝利することができ、とても盛り上がりました。この3日間は、最高でとても充実し一生の思い出です!!



ロサンゼルスでは、実物のスペースシャトルエンデバー号を間近に見て、迫力に圧倒されました。またメジャーリーグ観戦では、観客が総立ちになり大きな声援をしたり、球場全体でウェーブを起こ

したりして大いに盛り上がりました。他の様々な研修も楽しくて、すべて自分のプラスになり大きな経験となりました。このような素晴らしい機会を与えてくださった、海外派遣でお世話になった方々に感謝します。またこの経験を人生の財産として、これからの生活に活かしていきたいです。

「Thank you」のアメリカ

愛媛県立西中等教育学校 谷 夏希

私たちの暮らす日本には、たくさんの方々が感謝を表す言葉があります。しかしアメリカではそれを「Thank you」で表します。私がアメリカに行く前から、たくさんの方々に「Thank you」を言われて、たくさんの方々に感謝の言葉を学びましたが、一番学んだのは感謝の心だと思っています。

アメリカに来てすぐのサクラメント大学寮では、うまく英語が伝わらないこともあったし、初めての外国で、たくさん失敗したこともありました。そんなときに、手伝ってくれたのは、アメリカ班の友達や、引率の先生方でした。また、大学寮の方々と親切で、道を通るときに道を譲ってくれたり、ドアを開けてくれたりしました。このような当たり前のことにも、当たり前と考えることに、感謝の気持ちを持つことが大事だと思いました。

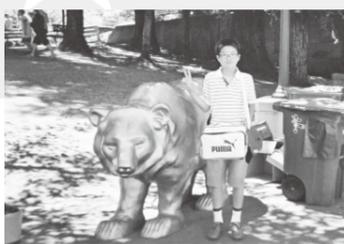
また、ホームステイの時には、ホストファミリーの方々にとても親切にしてもらって、とても良い思い出ができました。ホストファミリーの方々に、どれだけ感謝を述べても足りません。日本では恥ずかしくて、なかなか「ありがとう」が言えませんでした。今回の研修で学んだ「感謝の心」を大事にして、言葉にしたいと思います。

アメリカ体験記

松山市立道後中学校 濱田 航汰



僕が、体験し、学んだことは、2つあります。1つめは、英語が分からなくてもジェスチャーで伝えることができるということです。ホームステイ先で、夕食を食べたとき、何かと聞きたかったのに、言葉が出てきませんでした。何とか伝えようと、身振り手振りで頑張りました。その時は、ジェ



分が分からなくてもジェスチャーで伝えることができるということです。ホームステイ先で、夕食を食べたとき、何かと聞きたかったのに、言葉が出てきませんでした。何とか伝えようと、身振り手振りで頑張りました。その時は、ジェ

スチャーでも、伝えることができるんだということ学びました。2つめは、アメリカは何でもかいいことなんです。ショッピングモールの端から端まで行くのにも疲れず、スーパーマーケットのペットボトルが2リットルの大きさが2倍の大きさだったり、びっくりしたことがたくさんあります。

ANOTHER SKY

新田青雲中等教育学校 三田 羽亜人

サンフランシスコに入った瞬間、私は感動しました。それは「空」にです。私は日本とは違う絵のような空に驚きました。アメリカという国の自然の広大さに...

そのアメリカで心に残った思い出はたくさんあります。例えば、サクラメント大学の大学寮です。大学寮の中でも、大学の食堂の食事は今になっても忘れられません。食堂の食事は非常においしかったのですが、量はとて多かったんです。食堂はバイキング形式で係の方に料理を注いでもらう形です。朝食は日本のホテルのモーニングのようなパンケーキ等で、夕食は大盛りのスパゲッティなどです。この食堂は他の大学生も利用しているので、一緒に話すことができました。話していたら、日本語の話題が出てきました。そうしたら、外国人が英語のなまりがあった。日本語で「ありがと」と言いました。その時、私はもともと色々と話してみたいと思いましたが、日本人と話すように心が通じ合えばどれほど楽しいだろうかと思いました。今度、アメリカに行く時は英語をしっかりと勉強して外国人と話せるようになりたいです。そして、アメリカを第二の故郷にしたいと思います。このように思えたのは、今回の研修派遣のおかげです。



派遣でお世話になった引率の先生方、国際交流協会の方々に感謝しています。この経験を無駄にせず自分の未来の夢に繋がれるようにがんばりたいです。

アメリカという大地に降りて

済美平成中等教育学校 三原 瑛心

この11日間、自分はカリフォルニア州のサクラメントやロサンゼルスなどの様々な場所を訪れ、たくさんの方々の経験をしました。それらの経験はどれも自分にとって良い経験となりました。サクラメントに滞在していた間は、大学生の人達や、ホームステイ先の家族の人



達とたくさん英語を使う機会がありました。自己紹介、部屋や機械の使い方、値下げの交渉、ちょっとしたジョークのやりとりまで全て英語を使うのはとても大変でしたが、相手に自分の英語が伝わって安心しました。塾や学校、そしてなによりまっつや国際交流センターで学習してきた甲斐がありました。アメリカに来て素晴らしいと感じたものは、バスから外の景色を見ていた時のことです。アメリカの夜明けは日本に負けないほど美しく、ずっと見ていると飽きませんでした。昼にはアメリカの色々な風景を見ることができました。ショッピングセンターや通りにあふれかえる人混み、太陽が輝くビーチ、ホームタウン、広大な農地など、見ているだけで自分を楽ませてくれました。夜には都市部や高速道路の夜景を堪能しました。建物の光り具合やたくさん車の光が、今でも目に焼き付いています。

カリフォルニアサイエンスセンター

松山市立南第二中学校 森田 藍友

11日間の研修で一番心に残っている出来事は、カリフォルニアサイエンスセンターに行ってきたことです。まず、実際に打ち上げられたスペースシャトル「エンデバー」を見ました。大きなスクリーンでこのエンデバーがサイエンスセンターに運ばれてくる様子を映像でみることもできます。また、スペースシャトルの搭乗の疑似体験をすることができました。5\$だったので乗ってみようかと思っただけ時間がかかったのでやめました。エンデバーはとて大きかったです。エンデバーに使われている高温に耐えるタイルは一枚20万円もするそうです。次に、北極の世界のプースに行つて本物の北極の水を触りました。とても冷たかったです。その後も色々なプースに行きたくさんの体験をしました。最後に生命の世界のプースにいきました。そこではひよこの成長の様子を見ることができたり、心臓の手術の様子を見ることができたりします。理系が好きなたたしはとて幸運な時間でした。



た。最後に生命の世界のプースにいきました。そこではひよこの成長の様子を見ることができたり、心臓の手術の様子を見ることができたりします。理系が好きなたたしはとて幸運な時間でした。

ドイツ班

フライブルク市



◀ドイツ班日程▶	
7月18日(金)	松山発 伊丹空港着 大阪泊
7月19日(土)	関西空港発 フランクフルト着後、 フライブルクへ移動
7月20日(日) ～23日(水)	ホームステイ&交流プログラム開始
7月24日(木)	インスブルックへ移動後、 旧市街見学
7月25日(金)	レッヒ村での アルプス・ハイキングと 環境保護政策の学習
7月26日(土)	農家体験と英語研修
7月27日(日)	アルプス動物園
7月29日(火)	インスブルック発 ※天候不順により出発日が 28日から29日に変更
7月30日(水)	松山着

私の目標『覚え立言葉の壁』

愛媛大学教育学部附属中学校 井口 利奈

日本、松山の事をたくさん伝えてよという私の目標は、とても高い言葉の壁に邪魔されました。一番そう感じたのは、ホストファミリーと過ごした時です。相手の言葉が分からないことも多々ありましたが、自分の伝えたいことが伝えられなかったのが何よりも悔しかったです。それでも、フライブルクやドイツの事を分かりやすく説明してくれたお父さん、お母さん。たくさん話しかけてくれたマリウス。一緒に折り紙を折ったり、買い物をしたアナカ。優しいホストファミリーのおかげで楽しい時間を過ごせました。

インスブルックの農家体験では日本語を勉強しているという女の子と友達になり、ドイツ語の「名探偵コナン」を見せてもらいました。しかし、ここでも英語でどう言えはいいの分からないと言葉の壁を感じたり、聞かれた日本の事が分からなかったり、自分がどれだけ知らないか分かりました。

伝えたいという気持ちで、簡単なことや自分の気持ちはなんとなく伝わります。でも、どう言うか分からない、知らないことは伝えられません。それが分かったこの研修旅行は素晴らしい経験となりました。私の目標がいつか達成できるように、英語の勉強にもっと力を入れるのはもちろん、日本史や地理、政治のことなど日本や松山に関わる勉強も頑張りたいです。



ホストファミリーと一緒に

感動のドイツ！涙の別れ！

松山市立小野中学校 内野 晴基

「外国人しかいない。」目を疑いました。12時間という長時間のフライト後、アムステルダム空港で周りを見渡し、そこで初めて外国に来たのだと実感しました。初めて訪れる外国に対し、わくわくしている気持ちと、これからどんな試練が待ち受けているのだろうかという不安な気持ちがありました。

ドイツでの活動は興味深さと驚きの連続でした。

まず、フライブルク大学について学んだこととです。大学の中にある自然や、学生たちの楽しそうな雰囲気を感じ取り、ここに入学してみたいと思いました。進路の決め方など仕組みは違うものの、一生懸命に勉強することが必要という点は日本と共通でした。

心に残ったもう一つは、ホームステイです。ホストファミリーはとても優しく、普段のドイツ語ではなく、英語で僕と会話をしてくれました。

コミュニケーションで気がついたことは、自分の会話力についてです。何を言っているのか全くわからないことも多くあり、もっと勉強しておけば良かったと改めて思いました。ホストファミリーが必死になって気持ちを伝えようとしてくれたので、僕もジェスチャーや知っている限りの英語を使って懸命に伝えました。英語力も大切ですが、それ以上に相手に



ホストファミリーとフランス

ホームステイで学んだこと

松山市立道後中学校 大亀 利紗

私は、ドイツに行く前にこう思っていました。ドイツはあまり日本と変わらず、単に、ソーセージとビールが有名所であると思っていたのです。しかし、ドイツに行くとホームステイをしてみると、最初に思っていたことは、少し違っていました。例えば家の大きさは、自分の家と同じくらいだと思っていました。実際には、比べものにならないくらい大きく、とても驚きました。ほかにも、晩ご飯が日本と比べて少なかったり、夜8時くらいまで明るかったりなど驚くことばかりでした。

私がこの研修で一番に学んだことは、伝えることがとても大事だということです。初めて来た異国の地で消極的になると、とても損をします。何かを伝えたいという時には、言葉がわからなくても、ポスターや絵で説明するなど工夫をしました。2週間にもわたる、とても貴重な時間を経験させていただき、周りの方々に感謝しています。これらの学んだことを、日々の生活に活かしていきたいです。



ホストファミリーとドイツ

真似をすることは大切なこと

松山市立雄新中学校 大谷 薫平

僕は自転車が好きです。僕がこの研修に参加した理由はたくさんありますが、その一つは、「ドイツの人々は自転車をこよなく愛している」と聞いたからです。

ドイツに着いてから、ドイツの人々が自転車を愛していることはすぐに分かりました。どこを見ても自転車に乗っている人が多かったからです。

ホストファミリーと会って、最初の一日は、終日ホストファミリーと一緒に自由行動でした。その日は、市内の観光をしました。しかし、僕の大好きな自転車たちがあちこちにあるので、そつちには目がいってしまっていたと思います。そこで思いきって帰りの車の中で、「サイクリングがしたい。」と言いました。すると、家に帰ってからパートナーのルイスとサイクリングに行くことができました。

貸してくれた自転車は、僕のものよりも格段に良いもので、その乗り心地には感動しました。サイクリングの途中、僕はルイスにドイツの人々がこんなに自転車が好きな理由を聞きました。すると、ドイツの人々はただ自転車が好きなだけでなく、環境大国である自分の国に誇りを持ち、車による二酸化炭素の排出を防ぐため、自主的に自転車を使っていることがわかりました。僕はそれを聞いて、彼らドイツ人のすごさに気づき、とても感動しました。

僕も彼らの行動を真似して、ほんの少しでも、今の日本よりも良い日本にできたらいいなと思いました。



アーチェリーにチャレンジしているところ

勇気の先に広がる世界

松山市立三津浜中学校 黒星 さらら

「気づき、考え、行動する。」

私はこの研修でいつも言われている、この言葉の大切さを改めて学びました。日本を発つ前、普段から気づいたり、考えたりする事はできていても、いざ行動するとなると、なかなか勇気が出ず、できなかった事が多いので、「絶対この研修では・・・」と強い気持ちで臨みました。

ホストファミリーと出会ってから、1日目は自由行動でした。私とドイツ班の友達、そしてお互いのホストファミリーと一緒に、湖に行きました。言葉の壁のあまり、日本人同士、



初のピクニック

ドイツ人同士と、別れて話してしまっている自分たちに気が付きました。これではいけないと思い、状況を変える方法を考えました。思い付いたのが、日本人同士で話すときにも英語で話してみたらいいのではないかとということでした。行動までに少し不安もありましたが、勇気を振り絞ってドイツ班の友達に、「私たち、全部英語でしゃべってみない」と提案しました。私たちが英語で話すようになってから、思いが通じたのか、彼女たちも会話に入ってきてくれ、話題を共有することが出来ました。ホームステイ終盤になると、積極的に自分から話しかける事が増え、とても充実した日々となりました。

あの時の少しの勇気が、この研修すべてを変え、私の意識までも変えたのです。

このことを日本に帰ってから、周りにも心に残り、周りの人への感謝の気持ちを忘れず、世界で活躍できる人になるように努力し続けました。

初めての海外

松山市立雄新中学校 橘 美伸

出発前から、ホームステイ中に一緒に遊んだり、食事をしたり、出かけたりのことを楽しみにしていました。ドイツでの活動は、全てが新鮮で、刺激的で、予想できない事ばかりでした。今回の海外派遣を通して、自分の言いたい事を伝えることの難しさを、身を持って体験することができました。最初は、何と言えはいいの分からない、諦めることが多かったけれど、徐々にジェスチャーなどを使って、伝えられるようになってきました。

活動の一つとして、ホストパートナーと一緒に郊外のオリエンテーリングをしました。そのときには、自分の行きたい場所を明確に伝えることができました。また、ドイツ語を使い、ホストドックの購入体験をしました。外国の言葉を探るのは難しく、すぐに忘れてしまいましたが、村上校長先生が言い方を教えてくださり、買うことができました。

最後の日に



お別れするとき

このことを日本に帰ってから、周りにも心に残り、周りの人への感謝の気持ちを忘れず、世界で活躍できる人になるように努力し続けました。

すべてに感謝！ドイツでの生活

松山市立久谷中学校 田中 桃子

「本当に来て良かったのかなあ。」

これが、フランクフルトに到着した時の私の正直な気持ちです。私はあまり英語が得意ではありません。海外に出るのも、ホームステイも初めてです。ステイ先の人たちと仲良くなれるか、会話はできるか、楽しく過ごせるか、とても心配でした。

でも、迎えに来てくれたママがとても優しくだったので、ほっとしました。また、家に着くと家族みんなが笑顔で迎えてくれました。「名前しか知らない私をこんなに笑顔で包んでくれるなんて、本当に優しい人たちなんだなあ。」と思い、不安がうんと小さくなりました。その日の夜、ママに、「シャワーを使ってもいい？」と聞いた時、「もちろん。ここはあなたの家なのよ。」と言ってくれました。その時は、来て良かったと心から思いました。

片言の英語でも、身振り、手振り、表情でちゃんと伝わりました！心を込めて表現すれば必ず分かりあえるのです。国が違っても、言葉が違っても通じ合えることを実感しました。それと同時に、もっと英語を勉強して、細かい内容や微妙なニュアンスも伝えたいと強く思いました。

お別れの前日、今までありがとうという気持ちで込めてメッセージを書きました。美しい自然、優しい人々、ドイツで出会ったすべてのことに感謝しています。また、今回の派遣を支えてくださったすべての人にお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。



りっちゃんとママと自分

優しい人々、ドイツで出会ったすべてのことに感謝しています。また、今回の派遣を支えてくださったすべての人にお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。

13日間の貴重な体験

松山市立椿中学校 津田 奈緒

ドイツはエコの国という固定観念を抱いていました。いったい日本とどう違うのかという疑問を抱きながらフライブルクの地に降り立ち

ました。そして6日間のドイツ滞在中にエコのことで2つのことが大きく印象に残りました。その一つ目は、道路わきや玄関先に人の背丈ほどの大きなコンテナがたくさん並んでいたことです。ホストファミリーが、他の人の分別でできないゴミを分別して入れていたことにも感心しました。後で、このコンテナの中の物の約90%がリサイクルされ、破壊するものは約10%しかないことが分かりました。スーパーでもデポジット制度が大いに活用されていることを体験できました。

二つ目は、移動手段です。自転車を利用する機会が多く、環境に優しい生活をしているドイツ人を見習いたいと思いました。ホームステイ先では意志疎通が難しい中でも、私の表情やジェスチャーに気づいて、コミュニケーションをとってくれたホストファミリーの温かさに触れ、自分も同じように出れば良いと感じました。

海外派遣を通して、今までの自分の生活を見直すよい機会となり、今後はいろいろな国の出来事にも興味を持ち、生活でできるような心がかけたい



ホストファミリーと

I want to be back to Germany in the future

飛行機からドイツの景色が見えた時、これからへの期待感と、人見知りの性格からコミュニケーションがきちんと取れるか、英語は通じるだろうかなどの不安がありました。

Freiburgではホームステイが一番心に残りました。パートナーのAlmaとは同じ学年でもあり、映画や趣味について、自身の英語力のなさを痛感しながらもたくさん話しました。ある日、プログラムを終えてホームステイ先に戻るときにホストマザーから電話があり、Almaと一緒にAlmaの妹が通っている小学校に行きました。そこにはAlmaの妹たちが卒業することを記念して、短編劇が行われていました。ドイツ語なので何を言っているかはさっぱりでしたが、身振り手振りで何とかわかりました。歌を歌っていたところが一番面白かったです。

Inshuckでの一番の思い出は英語研修です。街に関する問題が出され、辞書が手元がない状態で友達と街を歩きました。道

行く人に尋ねたり、お店の方に聞いたりしました。全ての問題は解けませんでした。英語力を向上させ、友情を深める、いい機会になりました。

今回、このような素晴らしい経験をさせていただいたのは、この派遣で一緒だった仲間、引率の先生方、国際交流センターの方や現地ガイドさん、家族、私のことを温かい目で見てくれたホストファミリー、私を支えてくれた皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。将来、この経験を活かしたいと思っています。 Danke school



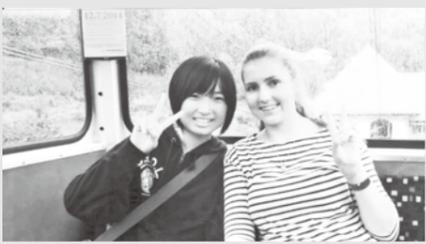
ホストファミリー

初の海外

野上 晴花

7月18日、私たちはドイツのフライブルク市に向けて旅立ちました。不安はありましたが、これから起こることに対する期待の方が大きくてワクワクしていました。いざドイツに着くと、自分が今ドイツにいるという実感がわかなくて、ホストファミリーに会う直前にやっと緊張感が生まれました。ホストファミリーに着いてからは、勇気を振り絞って、下手で簡単なドイツ語で挨拶をしました。挨拶をしたらうなずいてくれたので、ドイツ語を勉強してよかったなと思いました。家族のこと、学校のこと、松山のことを説明して、みんなでトラップをしたり、パートナーのルイズとハリポッターのDVDを見たりして、ホストファミリーととても仲良くなったと思います。別れの日、とてもフレンドリーだったルイズやルイズの家族と離れるのが辛くて、少し泣いてしまいました。ルイズが最後に、We are best friends. いつかまたドイツに来てね、と言ってくれ、ドイツにまた来たいなと思いました。

ドイツでは、エコのことについても学ぶことができました。空になったペットボトルを回収するデポジットや、サッカー場の屋根に太陽光パネルを設置するなど、エコの精神を見習わなければいけないなど強く感じました。この11日間で学んだ、環境について、積極的



ホストファミリーと黒い森に満足

た。空になったペットボトルを回収するデポジットや、サッカー場の屋根に太陽光パネルを設置するなど、エコの精神を見習わなければいけないなど強く感じました。この11日間で学んだ、環境について、積極的

な行動をとることや、仲間などの人の大切さを、今後の人生に活かしていきたいらなと思っています。一緒にドイツで過ごしてきた仲間や、このような機会を作ってくれた家族や先生方に感謝しています。本当にありがとうございます。

我が愛しのフライブルク

兵頭 宗太郎

松山空港に到着した時、研修の達成感とドイツを離れた寂しさを改めて感じた。

ホームステイのパートナーのフィリップは僕より3歳年上の16歳(10年生)だった。僕は、一人っ子だったのでお兄さんができたみたいでとても嬉しかった。フライブルクの街並みの美しさや、ホストファミリーのあたたかさには毎日感動させられた。1日目は、ヨーロッパパークという大きい遊園地に連れて行ってもらった。ジェットコースターなどを楽しんでいるうちに、自然と家族みんなと仲良くなった。夜は家族と折り紙をしたり、ドイツの遊びを覚えてもらったりして楽しかった。相手の言っていることがわからなかったり、伝わらなかつたりして困ったこともあった。だからこそ英語やドイツ語を勉強し、海外の人と話したいと強く思った。文化も環境も違う国ドイツで最も驚いたのは、国民一人一人のエコ意識の高さだ。例えば、ドイツでは空のペットボトルを、スーパーに設置している機械に入れると、お金を返してくれる仕組みになっており、たくさんの方が利用していた。

初めて訪れたドイツが大好きになったのは、素晴らしいホストファミリーと出会えたおかげだと思う。このような機会を与えてくださった方々と、Wohlfahrt家の皆さんに感謝の気持ちでいっぱい。

今回の経験を活かして、今まで以上に国際交流活動に積極的に参加していきたい。今度、僕の家族がホストファミリーとなって海外の方を受け入れ、松山を好きになって頂ければ、最高だ。



ドイツの家族

今回の経験を活かして、今まで以上に国際交流活動に積極的に参加していきたい。今度、僕の家族がホストファミリーとなって海外の方を受け入れ、松山を好きになって頂ければ、最高だ。

フライブルクで学んだこと

福谷 幹太

今回の研修を終えて、考えたことがありま

す。それは「積極性が大事」ということです。ホストファミリーとの生活では、いろいろな場所につれていってもらいました。スポーツセンターでフライングやビーチバレーなど、普段はできないようなスポーツをしたり、教会へ行って聖書を読んだり、家にあるプールで泳いだり、充実した日々を送れました。そして一番に残っているのは、他のホス



初めてホストファミリーと出会ったとき

の後の日々はそれまで以上に言葉をかかわすことができました。これからまた、このような機会があったときには、「積極性」という言葉を心に留め、会話を楽しみたいと思います。

「13歳の夏にありがとうDanke!」

愛媛大学教育学部附属中学校 藤田 櫻子

13日間の研修のなかで、いちばん印象に残ったことは農家体験です。なかでも心に残っているのは、壁に日本の絵を描く絵画体験と昼食交流会です。私は、大きな壁に日本の国花とされる桜の花を描きました。そして、同じ班のメンバー5人で花が咲いたように手形を押ししました。絵を通して、日本のことを伝えることができました。昼食交流会では、地元中学生と一緒に昼食をいただきました。日本語を学んでいる人もいて、たくさん日本語で会話をすることができました。研修中、いろいろな場面で「日本」を感じました。日本に関心をもってくれていることを、とても嬉しく、誇りに思いました。そして、改めて日本がもっと好きになりました。あつという間でしたが、充実した研修でした。心を揺さぶるたくさんの体験、様々なことを考える機会を得ることができました。チャレンジプロジェクトの活動で、これまでに出会った先生方、支えてくださった



ドイツの学校の先生

た方々、ともに研修に励んだ仲間、そして、引率して下さった先生方、本当にありがとうございます。13日間で学んだことを、今後の私の人生の糧としたいと思います。そして、次に海外に行く時は、今よりもっと自分自身のポケットを増やし、語学力を向上させる！それが、私の今の目標です。そして、自信をもってその国を学び、日本をアピールしたいと思います。

すべてが新しい経験

松山立南中学校 藤田 祥也

今回の研修ではすべてのことが新しい経験でした。中でも印象に残っているのは、ホームステイです。僕は最初に空港に着いたとき、ドイツにきたという実感がありませんでした。ホストファミリーに会ったときに初めて実感がわきました。ホームステイ先についていたとき、緊張してしま

い、話すことができませんでした。すぐに会話が止まりました。僕が話している内容が伝わらなかつたりしました。ですがホストファミリーは、そういう時でもしっかり聞いてくれて、理解しようとしてくれました。知り合いが言っていた通り、もうひとつの家族のようでした。

僕のパートナーのハンナとケイリンは実技学校に通っていました。ハンナはバレエやコントラス、ケイリンはジャグリングなどをしていました。そのことを聞いたり、日本のことを教えた。自分の語学力を試せたので良かったです。5日間様々なことができました。



ホームステイ先

今回の研修ではすべてのことが新しい経験でした。中でも印象に残っているのは、ホームステイです。僕は最初に空港に着いたとき、ドイツにきたという実感がありませんでした。ホストファミリーに会ったときに初めて実感がわきました。ホームステイ先についていたとき、緊張してしま

一生の宝物になった貴重な日々

松山立久米中学校 正岡 藍理

「あつという間だったな」帰国後ふと出たこの言葉は、12日間の充実し笑りの多い時間を意味していました。

フライブルクの5日間は、文化の違いとホストファミリーの温かさに触れることができました。初めて会った日に、山にハイキングに連れて行ってもらい、ドイツの自然を満喫し、すぐにファミリーのみんなと打ち解けることができました。お父さんのインゴは大らかで陽気、お母さんのジョナは料理上手で親切、美人姉妹のマリとカールは私のかわいい妹、末っ子の3歳のジェイコブはやんちゃでキュートな弟に

なってくれました。インゴとジョナが奏でるピアノとホルンは大変美しいハーモニーでした。言葉の壁にぶつかりくじけそうなきも、ホストファミリーの笑顔に救われました。小さな英語の表現も通じれば、大きな自信になることを知りました。

インスブルクでの5日間は、アルプスハイキングでのハーブオイル作り、農家体験でのジャム作りや蜂の蜜蝋を使ったロウソク作りなど、日本では味わえない自然体験ができました。

13歳ならではの感性で、見て聞いて体験したこの貴重な日々を、一生の宝物にして今後の人生に活かしていきたいです。



ホームステイ先の昼食

ホームステイ

渡邊 咲良

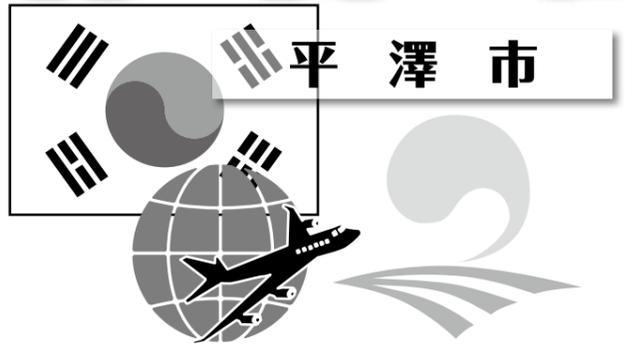
私は今回初めての海外、初めてのホームステイでした。初めはわくわくしていました。積極的に話しかけて仲良くなるよう、日本に帰ってからも手紙などのやり取りができた方がいいな、などと色々考えていました。

ところが、いざホストファミリーがホテルに迎えに来ると、思っていたより緊張して全く話せませんでした。ホストファミリーの子も、日本では中学2年生の女の子なのにすごく大人っぽくて綺麗でした。そして、とても優しく行ってくれました。しかし、喋るとなると緊張して、上手く相手の英語を聞き取ることもできませんでした。それを見かねてか、ホストファミリーはGoogle翻訳を使って話しかけてくれるようになりました。意思疎通はしやすかったですが、正直悔しかったんです。他の子は、簡単な英語でもちゃんと自分の言葉で意見を伝えられていたのに、私は最後まで翻訳機能に頼って生活していました。何のために一人でホームステイをしているのか、もっと良く考えなきゃ。それでも、簡単な挨拶はホストマザーに教えてもらい、ドイツ語で言えるようになりました。最初不安だらけだったホストファミリーも、最終日は別れが寂しくて泣いていました。「また、私たちの家に来てね。」と言われた時、もっと勉強して、翻訳を使わなくても会話できるようになってから会いに来ようと思った。



ホストファミリーと

韓国班



韓国班日程	
派遣	7月25日(金) 松山発 ソウル着後、平澤へ移動
	7月26日(土) キャンプ開会式、韓国文化体験
	7月27日(日) ホストファミリーと過ごす
	7月28日(月) 文化体験活動、ソウル市内見学
	7月29日(火) 平澤発 松山着
受入	8月1日(金) 松山着
	8月2日(土) オリエンテーション 日本文化体験、ホームステイへ
	8月3日(日) 各家庭での交流
	8月4日(月) 西条、しまなみ海道へバスツアー
	8月5日(火) 考古館、食品サンプル作り体験、松山発



その夏、高島屋で行われた「韓国文化体験」の思い出。写真も撮りました。二人で楽しかった。この夏最高の思い出になりました。今回の交流を通して、た



ステイ先の姉妹と民族衣装を着て。山形市表敬訪問のときにドヘを含めた韓国のパトナーの友人達がサプライズで歌を歌ってくれたことです！本当に嬉しかったです。本当にありがどう！派遣

松山市立南中学校 木岡 未奈美
7月25日に不安と期待を胸に韓国に出発しました。パトナーとの対面後、最初はなかなか話が続かず話題を探しながらジェスチャーや知っている単語で一生懸命伝えるのに必死でした。伝わらないもどかしさと不安からホームステイが心配だったけどパトナーのダエの家族はとても気さくでたくさん話しかけてくれました。一度食べてみたかったサムギョプサルや韓国のお正月に食べるお雑煮も食べさせてもらったり、チマチョゴリを着せてもらったりと貴重な体験ができました。

松山市立道後中学校 一色 剛凜
8月2日に、僕のパートナーであるチョルミンとコムズで再会しました。家に向かう時は、僕が彼の家に向かった時と一緒で緊張していたんだと思います。しかし、僕と母と父が話題を色々取り上げ車を盛り上げたので、彼も次第に笑顔になっていきました。

松山市立道後中学校 上田 真名実
私は韓国に行く前、本当に不安で仕方ありませんでした。私の下手な英語が通じるか、ご飯は食べられるか、会話が通じないか、色々心配でした。しかし、私はパートナーに会ってその不安は一気に消え去りました。私のパートナー、キム・ドヘは明るくてスマホ等を使って一生懸命話しかけてくれました。しかも、まだ私と同じ年齢(14歳)なのに化粧をしていて、とてもお姉さんっぽく見えました。私は、隣の国なのにとても進んでいる韓国に、大変驚きました。

松山市立道後中学校 尾形 隆晃
日韓交流事業、ホームステイのほか明洞での自由散策がありました。街の至る所に日本語の看板や、日本企業のお店が多くとても驚きました。派遣前に母から韓国についての本を借りて明洞について読んでいたので、予想以上に多くとても驚きました。最近日本人観光客が減っていると言われている明洞で多くの日本人観光客を見ました。明洞で日本人が経営するお店もありました。韓国人の店員さんでも、日本語が話せる店員さんという事はないので、言葉が通じなくて困ったという事はありませんでした。

松山市立南中学校 佐川 優希
私は初めての海外で5日間も過ごせるかどうかわからない。でもホストファミリーに優しく声をかけてもらい緊張もすぐにほぐれました。ホストマザーは料理がすごく上手でたくさん韓国料理を作ってくれました。一番美味しかったのはトッポギでした。



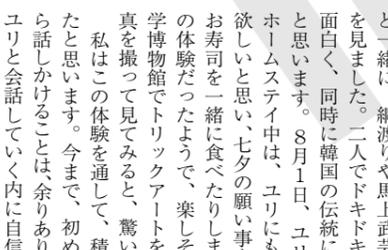
景色を見てあげることができました。そして、前よりも格段に会話もスムーズにできるようになり、自ら話しかける回数も増えて充実した時間を過ごすことができました。でも、別れは待つてくれず松山空港でダエの涙を見て私も別れたいという思いが強くなり、最後まで力いっぱい手を振り続けました。

松山市立南中学校 木岡 未奈美
7月25日に不安と期待を胸に韓国に出発しました。パトナーとの対面後、最初はなかなか話が続かず話題を探しながらジェスチャーや知っている単語で一生懸命伝えるのに必死でした。伝わらないもどかしさと不安からホームステイが心配だったけどパトナーのダエの家族はとても気さくでたくさん話しかけてくれました。一度食べてみたかったサムギョプサルや韓国のお正月に食べるお雑煮も食べさせてもらったり、チマチョゴリを着せてもらったりと貴重な体験ができました。

松山市立南中学校 木谷 駿輔
初めて訪れる韓国は、どんな街なのかワクワクとドキドキでいっぱいでした。時間の都合でソウルの滞在時間は短かったのですが残念でしたが、明洞の街を歩くと心が多々賑わいを感じました。若者向けのおしゃれなお店が多く、洋服や化粧品、観光客向けのお土産屋などが並んでいてとても僕が気に入った帽子屋はデザインが良く、買おうかとも悩みました。

松山市立南中学校 佐川 優希
私は初めての海外で5日間も過ごせるかどうかわからない。でもホストファミリーに優しく声をかけてもらい緊張もすぐにほぐれました。ホストマザーは料理がすごく上手でたくさん韓国料理を作ってくれました。一番美味しかったのはトッポギでした。

松山市立南中学校 佐川 優希
私は初めての海外で5日間も過ごせるかどうかわからない。でもホストファミリーに優しく声をかけてもらい緊張もすぐにほぐれました。ホストマザーは料理がすごく上手でたくさん韓国料理を作ってくれました。一番美味しかったのはトッポギでした。



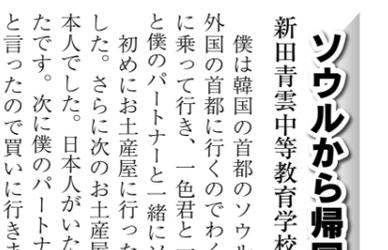
松山市立久米中学校 土井 理帆子
「アンニョンハセヨ。」これは、パートナーとホストファミリーと交わした最初の言葉でした。私のパートナーであるユリは積極的で、優しい子でした。初めての海外で緊張している私に、自分から話しかけてくれ、いつも体調を気にしてくれました。ユリがいたから、私はホームステイを楽しむことができました。

松山市立久米中学校 土井 理帆子
「アンニョンハセヨ。」これは、パートナーとホストファミリーと交わした最初の言葉でした。私のパートナーであるユリは積極的で、優しい子でした。初めての海外で緊張している私に、自分から話しかけてくれ、いつも体調を気にしてくれました。ユリがいたから、私はホームステイを楽しむことができました。

松山市立三津浜中学校 富吉 悠輔
4日目に、平澤国際大学内の施設で、料理体験と陶芸活動をしました。

松山市立三津浜中学校 富吉 悠輔
4日目に、平澤国際大学内の施設で、料理体験と陶芸活動をしました。

松山市立三津浜中学校 富吉 悠輔
4日目に、平澤国際大学内の施設で、料理体験と陶芸活動をしました。



松山市立三津浜中学校 富吉 悠輔
4日目に、平澤国際大学内の施設で、料理体験と陶芸活動をしました。

たとき有名な会社の「ユニクロ」があつて嬉しかった。ビヨンミン君は結局服は買わなかったけど、時計を1600円で買いました。ソウルタワーにこの後、皆で行く予定で少し残念でした。でも面白い物をしていく時にタワーが見えたので良かったと思います。面白い物が終わりましたあとに、皆で中華料理を食べに行きました。

次の日にソウルから仁川空港に行つてボラソニアの大学生にお礼を言つて日本へ帰つてきました。

この派遣を通じて、言葉は違ふけれど上手にコミュニケーションや必死に伝えようとすると通じることができるということを学びました。もし僕がまた外国に行くことがあつたら今回の派遣で学んだことを活かしていきたいと思つています。



出発の歓迎センター

松山市立久米中学校 正岡 拓朗

僕は、初めて海外へ行くのでワクワクしていたと同時に、ホームステイではうまくできるだろうかという不安も入り混じった複雑な気持ちでした。しかし、韓国の友達にそのことを言うと、「俺も緊張する」と言っていたので、みんなも同じ気持ちだと思つて少し安心しました。

松山空港から仁川空港までは1時間ちよつとだったので、すぐ着きました。仁川空港はとても大きくて驚きました。空港では、夕食にブルコギを食べました。韓国で初めて食べた韓国料理でしたが、とてもおいしかったです。空港からバスで移動し、大学の寮へ行き、その日は寝ました。

次の日、バスで青少年センターへ移動し、韓国のパートナーと初めて対面しました。始めは緊張して何も話せませんでした。歓迎会が行われ、出物で松山のクイズをしました。僕は、中国人にも分かりやすいように、中国語で松山のことについて紹介しました。昼食を食べた後、体験活動がありました。活動内容は韓国の伝統的な文化であり、ナンタ、テコンドー、応援ダンスの3つがありました。そのうち、僕は応援ダンスをしました。とても難しく、できるか不安でしたが、練習のおかげでパートナーとの距離が縮まりました。

おかげでパートナーとの距離が縮まりました。大変でしたが、発表し終わった後の達成感はずいぶんいいものでした。この、韓国で過ごした4日間と日本で交流した3日間の貴重な体験を活かして生活していきたいです。お世話になった皆さん本当にありがとうございました。



引率の先生方

アメリカ班

「世界の学童」まつやま中学生海外派遣

団長 松山市立日浦中学校校長 近藤 一茂

8月1日21時、予定通り全日程を終え団員全員、元気に戻つて参りました。解散式での子ども達の自信に満ちた表情は、この研修で得た確かな手応えを表現しています。

現代の目覚ましい科学文明の発達と反比例するかのごとく、人と人との絆が希薄になり、国際関係ですら平和が脅かされる昨今、異国の家庭に温かく受け入れられお互いの違いを認め合った経験は、一生の宝物として子どもたちの生きる道標となつてくれるはずだと思います。

また、全米日系人博物館では、詳しく歴史的背景を教わり、当時の日系人がどのようにして現在の日米関係の友好を築いてくれたかを知り、本事業の意義を再認識することができました。

最後に、受け入れ準備等でご尽力いただいたサクラメント市の皆様や滞在中の派遣団につきついでに案内して下さったカオル・フッカーさん始め多くの方々に深く感謝いたします。また、チャレンジプロジェクトから事前研修、11日間の海外研修までお世話になったまつやま国際交流センターの皆様にも心から敬意を表します。子どもたちは本研修を契機に近い将来必ずや真の国際人に成長し世界平和に貢献するものと確信します。この研修はまさに世界平和の礎となる人材を養成する「世界の学童」です。



サクラメント

松山市立三津浜中学校 教諭 森本 尚子

「アウト、セーフ、よよいのよい」という野球拳踊りのモダンダンス風にアレンジした中学生16名のダンスに大きな拍手が起こった。松山ならではの野球拳がサクラメント市ウェルカムパーティーに披露された一場面である。

松山・サクラメント姉妹都市協会第二副会長カオル・フッカーさんを中心に、ハリさん、ビルさん、トモコさん、グロリアさん等が、大学寮での出迎え、市庁舎、州議事堂見学、金発掘ツアー、オー

ルドサクラメント、ステイトフェア見学等、さまざまな交流の場面を設定し、みなさん飾らない人柄で、分かりやすい英語や日本語も交えて訪問先の説明をしたり、話したり下さった。現地の方々の生活様式を見たり、話したり、ドルを使って買い物や体験したり、生徒を見てみると日本での事前研修も活かして、アメリカの生活を楽しみながら着実に進んでいった。

この事業が2回も続いているのは、松山とサクラメント両市のたくさんの方々の、松山とサクラメントのそれぞれの文化やよさを尊敬する気持ち、そして何より異文化にふれてみたいという中学生の真摯な学ぶ意欲に支えられてきたのではな

いだろうか。引率教員の一人として参加できたことに、関係者の皆様に心より感謝の意を表したい。



Wonderful days in America!!

松山市立道後中学校 教諭 前田 満里菜

あつという間の11日間。アメリカでの一日は、私にとって、新鮮でかつ、刺激的な日々でした。アメリカに到着した瞬間から、見るもの、手にするものすべてが新鮮、聞こえてくる言語は英語。1日目から私の心が踊つたことを覚えています。

この派遣では、現地の方々と交流に胸が熱くなりました。私たちの生活のサポートや研修地の案内など、あらゆる面で私たちに助けて下さりました。日本の良さである「おもてなし精神」は、アメリカにも存在していることを感じました。そして何よりもアメリカの人々は、毎日を楽しみ、前向きに過ごしている印象を抱きました。関わり合いの場ではもちろん、働いている人々、子どもたち、観光地で見かける家族など、自分の人生をいかに楽しく彩るか、ということを一番に考え、実行に移している国民性がとても魅力的でした。

この派遣の中で、私が一番心に残っていたことは生徒たちの英語に対する積極性や人への対する優しさです。生徒たちが、現地で英語が話せないうちに報告に来てくれたり、仲間が失敗をしそうになったり、困っていたりすると、それらをフォローし助け合ったりする姿に日々感じていました。生徒たちは、現地の方々と交流や異文化体験を通して、体いっぱいアメリカの良さを吸収したかと思ひます。

この派遣の中で、「いつかサクラメントに戻って来ます」と強く決心をした生徒がいました。この海外派遣は、確実に松山とアメリカの架橋となり、そして未来を担う子どもたち

ドイツ班

時差ボケ

団長 松山市立鴨川中学校 校長 村上 典

「世界各国ではそれぞれ異なる時間を用いて生活しています。(地理の教科書より)一年生の社会科で学ぶ「時差」。「日本の午前8時は、8時間の時差があるドイツでは真夜中の0時となる」。教室で出す答えが、自身の人間が移動してみれば大変な答えが、自身の気付きます。昼夜が逆転し、体が簡単に現地の時刻には馴染まないのです。眠い！

気候の違いからか、少々の雨ではカサをささない人たちが多くいます。タバコのポイ捨てが目立つけれど、ペットボトルやナイロン袋が放置されることはまったくない。「ア」が信頼されていること……体験しなければ分からないことがたくさんあります。今回の経験が、派遣団の子どもたちの未来をどうのようにつなげてくれるでしょうか。

22年前に、36歳で「まつやま中学生海外派遣オーストラリア班」を引率しました。今年その「教子」たちは当時の私と同じ年になっていますが、その多くが今もつなっています。2年前に私が大病に陥つた時にも、彼らは連絡を取り合い励ましてくれました。涙が出るほどありがたく、彼らに出会い、その輪の中に入れていただけることを誇りに思っています。今年の子どものうちにも、お互いのつながりを大切にしたいと願っています。

13日間ぶり(飛行機のトラブルで一日追加)に戻った日本の何と羨し暑いこと！昼間は暑く、夜はなかなか寝付けません。「早く日本に馴染まなければ！」と慌てています。



国際人としての成長を願う

松山市立雄新中学校 教諭 二宮 真美

夜の8時をまわっても昼間のような明るさのフライブルクは、空気がきれい教会の鐘の音が響き渡る澄んだ街でした。「見て、聞いて、触れて、匂って、食べて」五感を使って学ぶドイツ研修プログラムは、雨の中スタートしました。

初日の独日フライブルク松山山会理事理事(氏)宅での夕食会は、とても緊張していました。ところが、皆さんの温かさに触れることで心は和み、楽しいひとときを過ごすことができました。

ました。派遣生たちが授業に参加させていたドイツ校視察では、肌の色や母国語の違う子どもたちが、伸び伸びと学習しているのを見て「いじめがない」と伺い、国際人としての資質が培われていると感じました。

研修後半のオーストリアでは、壮大な景色を堪能しつつ蜜蝋でのスズミ作りやハーブ採集など、充実した体験を派遣生と共にさせてもらいました。派遣生たちは徐々に積極性が増し、応募することなく英会話で友達の輪を広げていきましたが、私には相変わらず言葉の壁が高く、道を尋ねる時も買い物をする時も四苦八苦しました。

雨の日が多く、帰国も荒天に阻まれたが、また来たかと思わせる環境や自然、芸術や人と出会う機会を与えていただいたことを深く感謝します。夢と希望に満ちあふれた16名の派遣生が、この経験を思いやり、向上心や相手への思いやり、素直に相手の良さを感じ取れる豊かな感性に磨きかけ、国際人として成長してくれることを期待しています。



初めてのヨーロッパ

松山市立旭中学校 教諭 中村 一弘

飛行機とバスを使って約20時間目的地的なフライブルク市に到着しました。石畳や右側通行の車、そして日本語の無い町並みを見て、「本当にヨーロッパに来たのだ。」と実感しました。

出合いの朝、ホストファミリーが生徒を迎えにホテルに来ました。ホストファミリーは誰もが笑顔で生徒との新しい出合いを楽しみにしていました。中学生は笑顔を見せるものの、少し緊張している様子でした。少しの不安を感じながら、生徒たちはホストファミリーと各家庭に分かれていきました。当たり前ですが、各家庭の車は日本では高級車メーカーの車ばかりでした。

翌日、各家庭から集合した生徒の表情を見て不安は消えました。明るく、元気に昨日の様子をお互いに話し合っていました。生徒とともに過ごしながら、私は多くのことを学ぶことができました。

ドイツやオーストリアでの環境に対する考え方や政策、生活様式の違い、教育制度、日本とドイツの学生の違いです。ドイツの生徒はとにかく自分の意見を発表します。自分の意見を持ち、自ら挑戦しよう

とする姿はとても印象的でした。この派遣事業を通して、日本人の良さやヨーロッパに見習わなければならぬことを発見することができました。この貴重な体験を、今後の教師生活に生かしていきたいと思ひます。この事業を支えていただいたすべての方に感謝を申し上げます。

韓国班

韓国国際交流を通して

松山市立久米中学校 主幹教諭 八塚 久

海外に行くのは、新婚旅行以来です。バスポートの取得場所も昔と違い東温市役所で取得することができ、昔と比べて便利になったと感じました。

さて、韓国といえは東京へ行くのとはほぼ同じくらいの時間で行ける国だと思っていました。海外といえども日本に一番近い国と安易に考えていました。実際、仁川空港に着くとさすが有名なハブ空港だけあって飛行機が着陸してから税関を通り抜けるのに、職員以上かかると「ここに指を置きなさい。」とか「このレンズを見なさい。」とか言われましたが全然わかりませんでした。ただ、五十の手習いで始めた英語のスピードランニングで同じような場面があつたので理解することができました。

やっと関税を抜けて空港ロビーにでました。そこで事件が起こりました。引率生徒の一人のバックに警察犬がまわりつきました。そして、その生徒は、警察官に別の部屋に連れて行かれました。言葉もわからない私はどうすることもできませんでした。韓国語の堪能な松山国際交流協会の鈴木さんが素早く行動し生徒は無事帰ってきました。どうもバックの中の食べ物に犬が反応したようです。

韓国滞在中は、通訳の方、日本語が話せる大学生のボランティアの方々について言葉に不自由することは、ほとんどありませんでした。ただ、個人的にスーパーに買い物に行つたとき、レジのおばちゃんに「レジ袋はいりませんか。」と聞かれても全くわかりませんでした。ここでも助けてくれたのは、鈴木さんでした。

また、韓国での歓迎セレモニーの中で生徒たちは、松山のご当地クイズを日本語、韓国語、中国語で発表しました。楽しくできたのも松山国際交流協会の鈴木さん、劉さんのおかげだと感謝しています。

今回の事業で感じたことは、語学の大切さです。韓国は、距離的にも経済的にも、文化的にも身近な国ですが言葉は違います。言葉の違いや関わるには、言葉を感じる以外に、大切なのは、コミュニケーションをとることだと改めて感じました。今よく言われているコミュニケーション能力を高める事の大切さを感じました。言葉がわからなくても積極的にコミュニケーションをとることによって相手とわかり合えることを痛感しました。中学校の生徒たちの中には、意思表示の苦手な生徒もいます。で

この派遣事業を通して、日本人の良さやヨーロッパに見習わなければならぬことを発見することができました。この貴重な体験を、今後の教師生活に生かしていきたいと思ひます。この事業を支えていただいたすべての方に感謝を申し上げます。

この派遣事業を通して、日本人の良さやヨーロッパに見習わなければならぬことを発見することができました。この貴重な体験を、今後の教師生活に生かしていきたいと思ひます。この事業を支えていただいたすべての方に感謝を申し上げます。



も、情報社会、グローバル社会の中で生きていく生徒たちに言葉やジェスチャーで相手に伝えることの大切さを今以上に伝えていきたいと思えます。

このような機会を私や子どもたちに与えてくださった松山国際交流協会をはじめとするすべての方々に感謝申し上げます。最後にこの事業がますます発展する事を願って感謝の言葉といたします。

平澤(ピョンテク)市のカリスマ先生 松山市立道後中学校 教諭 片岡 祐子

海外旅行は何度かあるが、韓国は行ったことがなかった。キムチが苦手だったからである。しかし、苦手なことから逃げてはいけな、いちはん近い隣国のことを知ることが大事だと日中韓交流事業に参加した。

平澤(ピョンテク)市にとっては、4つの地域の交流という大規模な事業であった。日本からは青森市、松山市の中学生と、秋田の高校生、中国からは寧波(ニンポー)市の高校生が参加した。参加した生徒それぞれに同年代の平澤市のパートナーがおり、総勢96名に及ぶ生徒たちが参加した。空港で出迎えてくれたのは市職員1名と、大学生、中学生のボランティアの方々がいた。彼らは4泊5日の日程中ずっと同行してくれ、親切丁寧な生徒たちに寄り添って世話をしてくれた。彼らは日本についての知識が深く、日本語も話せる人も多かった。また、平澤市青少年文化センター長や活動企画長のお二人は、4つの地域すべての出迎えから見送りまで笑顔で見届けてくださり、おもてなしの心を学んだ。このお二人以上に私の印象に残ったのは、ゼネラルマネージャーのオーさんである。彼女は、日程の企画・運営を担当し、歓迎セレモニーの司会もこなす。文化体験活動では、韓国伝統太鼓「ナントク」の指導者として見事に初体験の生徒たちを統率して一曲演技を作り上げた。全体の場で披露した時の生徒の達成感あふれる表情は忘れられない。彼女の實力に裏打ちされた自信と威厳ある言動と、時にはユーモアを交えて生徒を引き付け、一生懸命にさせていくその手腕をみて、教師としての資質を学んだ。

韓国の文化には私が思っていた以上に日本の文化が取り入れられていた。でも食べ物や住まいには違いがあり、そのことを身をもって体験できた。

この交流が無事にできたのは、オーさんやボランティアの学生たち、まつやま国際交流センターの鈴木さんの企画・運営力と、語学力のおかげである。また、参加した生徒たちは、時間を守って規律ある行動ができていたことにも感謝したい。



相互交流(韓国班)で松山を訪れた平澤市の中学生たちの感想

韓国班は、派遣と受入の相互交流プログラムとなっています。派遣中、パートナーとなって一緒に行動した平澤市の中学生が松山市を訪れ、さまざまな交流活動やホームステイを通して、日本の文化や松山の良いところをたくさん感じてもらいました。

◆平澤市引率者に聞いた松山の印象◆

松山市の皆さんは本当によく自転車に乗っています。自転車で通行しやすいように自転車専用レーンが設けられていたり、自転車専用の駐輪場もいたるところにあったのが、とても印象的でした。

また、狭いスペースに上手に駐車されている車を見て日本の秩序や日本人の几帳面さを感じました。小さい軽自動車が多いことにも驚きました。

日本にいて、少しコチュジャンの味が恋しくなりましたが、醤油、砂糖、だしをベースにした日本食はどれも美味しくて、韓国へ帰ってから体重計の数値が大きく増えていたのは言うまでもありません。(＃^^＃)



平澤市青少年文化センター
イ・ヒュンさん

交流を終えて平澤市の引率者・中学生から「パートナー(韓国班)」

◆平澤市の中学生に質問◆ (松山での交流について)

Q1 日本の食事はどうだった?

- 食べ物の味が濃かった
- 焼き肉の肉を焼き過ぎることに驚いた

Q2 日本・松山に来て感じた文化の違いや驚いたことは?

- 歩道と自転車専用道路が区分されていたこと
- 食事のときにスプーンを使わないこと
- スマートフォンが完全に普及していないのか、電車やバスの中で読書をする人が多いのが印象的だった



Q3 プログラムの中で、一番楽しかったことは?

- ホームステイ
- 三津浜花火クルージング

Q4 日本・松山の印象は?

- マナーがよく、街並みや道路がとてもきれい
- 韓国と異なり、夜になると人が少なく静か

Q5 今回の交流プログラムに関する感想

- 今まで同世代の外国人と交流する機会がなかったので、パートナーとの交流はとてもよい経験になった

中学生チャレンジプロジェクトとは?



①プロジェクトに参加できるのは

- 松山市内に住んでいる、中学1年生、2年生
- 広く世界の国々について興味があり、地域での国際交流活動に参加する意欲のある人(派遣生になるにはプロジェクトへの参加が必要です)

②プロジェクトの流れ



③ポイント対象となる国際交流活動例

- ・地球人まつり
- ・まつやま中学生海外派遣報告会
- ・MIC職場体験
- ・「のぞいてみよう!国際協力の世界」
- ・「外国語deおしゃべり」(ジュニア編)
- ・ホームステイプログラム など

4ポイント以上ためると応募可能



まつやま国際交流センターってどんなところ?

まつやま国際交流センターは、Matsuyama International Centerの頭文字をとって「MIC(ミック)」の愛称で親しまれています。松山で暮らす人たちが人種・国籍・宗教などにかかわらず、仲良く快適に暮らせるよう、さまざまなサービスを行っています。

①「私も何かしてみたい!」という皆さんへ

- ☆ボランティアのための語学講座
- ☆ホストファミリーバンク
- ☆MMF (My Matsuyama Family)
- ☆外国人オタスケマン

②イベントを通して国際交流を体験してみよう!

- ☆地球人まつり (1月)
- ☆国際交流サロン (随時)
- ☆地域での交流活動のサポート (随時)

③外国人市民の皆さんへ

- ☆窓口相談サービス
- ☆外国語としての日本語教室
- ☆自転車の貸し出し

詳しいことが知りたい人はMICへ!



国際交流情報が満載のMICメールニュースを週に1回配信しています。配信希望の方は mail@mic.ehime.jp までメールを送ってください。



お問い合わせ ◆ まつやま国際交流センター (MIC)

〒790-0003 松山市三番町6丁目4-20 コムズ1階
TEL:089-943-2025 FAX:089-931-2041
E-mail:mail@mic.ehime.jp

MIC Facebookはこちら

